

第26回熊本県臨床工学会

拡大する臨床工学業務に挑む

～望まれる臨床工学技士を目指して～

ランチョンセミナー1

日時

2019年6月9日(日)

12:15～13:15

会場

熊本市植木文化センター
第1会場(文化ホール)

熊本市北区植木町岩野238-1

座長



井上 理恵子 先生

熊本機能病院 総合リハビリテーション部
言語聴覚療法課

演者



中石 真一路 先生

ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社 代表取締役
広島大学宇宙再生医療センター 研究員

1973年東京都生まれ熊本県育ち。前職のEMIミュージックで、スピーカーによる難聴者支援の研究に従事。退職後ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社を設立。約3年に亘る研究の末、卓上型対話支援システム「コミュニケーション」を発明。スピーカーシステムによる高齢難聴者支援の第一人者。現在、広島大学宇宙再生医療センター研究員として、聴覚リハビリテーション研究チームを発足。世界的にも注目されている。

セミナー

高齢難聴患者との
コミュニケーションミスが及ぼす
在宅医療への影響

jcek001-00026

高齢難聴患者とのコミュニケーションミスが及ぼす 在宅医療への影響

日本の2017年度における高齢化率は27.7%と世界でもトップクラスであり、さらに2035年には33.4%にも上ると予測され、3人に1人が65歳以上の高齢者となる社会が到来すると推計されている。このような高齢者の増加に伴い65歳以上の高齢難聴人口も1500万人と推計されている。高齢期の難聴は、社会的孤立となりやすいだけでなく、医療においては、ヘルスリテラシーや医療介入へのアドヒアランスの低下を招く可能性も指摘されている。

日本老年医学会は個々の価値観を尊重した『最善の医療およびケア』を受ける権利を擁護するための立場表明を行っていることから、患者の意思を尊重することは欠かすことはできないこととなっており、今まで以上に話し合うことが重要になってきている。そのためにも、多くの高齢者が自身の治療について意思決定していく過程で『患者の聴こえの状態』は極めて重要であるといえる。しかし、日本における補聴器装着率は軽度・中等度難聴者で約7%程度となっていることから、話者側からも対話を支援することが可能となる「卓上型対話支援システムcomuoon®」を開発した。

comuoon® はすでに多くの医療機関で利用されており、認知症検査、外来、受付、入院時の説明など患者に内容を理解させることが必要なシーンでは必須のツールとなっている。また、現在では在宅医療での利用も増えてきている。臨床工学技士においても役割の拡大に伴い、退院後も在宅において生命維持装置などを利用する患者への機器操作の説明などの介入場面も増えており、高齢難聴患者に対しての音声コミュニケーションはさらに重要になってくると考えている。以上のことから、医療機関へのcomuoon® 導入事例や脳科学的視点からの有効性に関する研究成果についてご紹介し、対話時の音場環境を整えることの重要性についてお伝えしていきたい。



対話支援機器 comuoon(コミュン)とは?

comuoon®
COMMUNICATION SUPPORT SYSTEM

話す側でできる聴こえの支援。
comuoon®(コミュン)は、
全く新しい対話支援システムです。

聴こえに悩んでいる人が自ら工夫するのではなく、
話す側から聴こえの改善に歩み寄るという
逆転の発想から生まれた対話型支援機器、
それが comuoon です。

聴こえに悩む方、その方と関わる健聴者の方、
その間に必要だったサポートがカタチとなりました。

※本製品は、医療器認定を取得した補聴器ではありません。

導入事例

明瞭な言葉を「脳」に届けることが実証された
ユニバーサルスピーカー「コミュン」

高級オーディオの技術を採用し、きこえに大きな影響を及ぼす歪みを極限まで抑えることで高齢者の聞こえを改善する、耳につけない卓上型対話支援システムです。銀行や病院、介護施設、地方自治体など全国4600箇所、約9000台が利用されています。

※実用化されている難聴支援スピーカーの中で唯一難聴者への有用性が日本耳鼻咽喉科学会で発表されています。



在宅医療 やまぐちクリニック様



京都銀行様



福岡市南区役所様

ますますひろがるご利用シーン



佐賀県立ろう学校様



九州大学大学院 医学研究員様



大本山 圓福寺様